

第2回 先行地視察研修

まだまだ真夏の暑さも厳しいですが、そろそろと雨の足音も近づいているフィリピンです。本日は5月18日から21日の4日間の日程で行ってまいりました、ベンゲット州先行地視察研修のご報告をさせていただきます。

今回の研修はルソン島内、ケソン州、ラグナ州、バタングス州、イロコスノルテ州から9名の参加者を招きました。18日、21日は移動日でしたので（マニラからベンゲット州までは4、5時間、渋滞にはまると恐ろしく時間がかかります！）19日、20日の中二日で先行地を回るというスケジュールでした。

今回訪問したのは、ツブライ町、ラトリニダッド町、ブギアス町の3町で、それぞれの町で農政課長と町長とも面会することができました。当プロジェクトへの理解が深い各町の農政課長は参加者に、①木酢施設の説明、②炭・木酢液、コンポストの使用法を彼らの言葉でしっかりと伝えて下さいました。各町、ローカルな農家への木酢液の普及や若い農家に向けた働きかけも積極的にしており、その取り組みも参加者に説明してくれました。



〈ツブライ町農政課長 Jeffrey さんと参加者〉

〈木酢液を使用したミミズコンポスト見学〉



〈抽出された木酢液〉



〈炭・木酢液を飼料に混ぜた鶏卵〉



〈ラトリニダッド町コンポストセンター〉



〈ブギアス町、昨年建設された木酢施設〉



〈若い農家の手がける白菜の畑。木酢液使用〉



〈写真右：ブギアス町農政課長 Delphin さんと若い農家に質問する参加者〉

20 日には、ベンゲット州知事への表敬訪問も行いました。長年、当会のプロジェクトへ協力してくれている知事の話は参加者の心にも響いたようで、30 分の予定だった面会は 1 時間半を超えるものとなりました。参加者からの幅広い質問を親身に受け止めて下さった知事への感謝は尽きません。

参加者も、各町の取り組みが継続した、将来さらに広がりを見せるであろう可能性を包含しているものと捉えてくれ、多くの質問が寄せられました。イロコスノルテ州の参加者からは町の農政課担当者にこの研修で得た知識を報告し、木酢施設設置に繋げ、炭・木酢液を導入できるよう働きかけてみるという声も伺えました。今後も我々プロジェクトスタッフがお手伝いできることが十分にあると確信致しました。

今年度は先行地視察研修を、あと 3 回程行うことを予定しております。次回はルソン島内だけではなく別の島からも参加者を募り、より多くの広い地域の人へ当プロジェクトを理解してもらい、炭・木酢液の有効性について認知してもらえたらと思います。